

日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム
2023年度第6回コンソーシアム会議 議事録

日 時： 2024年3月21(木) 13:30～14:45

場 所： Zoom ミーティング

出席者：(敬称略) 出席者下線

代 表：岸本喜久雄 (部会2) 副代表：山本誠 (部会3)

幹 事：白旗弘実 (部会1)

委 員：結城義敬、竹下隆晴、湯地敏史、松村暢彦、高橋章浩、佐藤勲、
中澤浩介、三田清文、新宮清志、吉田佳典、後藤まどか、
廣瀬壮一、井上裕嗣

維持員：森田勉

オブザーバ：對崎真楠、土屋大地、和田卓、原口亮治

顧 問：有信睦弘、松瀬貢規

事務局：島田敏男、竹内章晃

議 題： (順不同)

1. 2023年度第4回(12/20)コンソーシアム会議議事録確認
2023年度第5回(1/10～1/24)コンソーシアム会議(メール審議)議事録確認
2. 話題提供 経済産業省の人材育成に関する取り組みについての紹介
3. 2024年度人材育成コンソーシアムの体制及び取り組み方針等
4. その他

配布資料：

- 0-1： 2023年度第6回科学技術人材育成コンソーシアム会議 議題表
- 0-2： 2023年度科学技術人材育成コンソーシアム役員・委員名簿
- 1-1： 2023年度第4回コンソーシアム会議(2023/12/20)議事録(案)
- 1-2： 2023年度第5回コンソーシアム会議(2024/1/10～1/24)議事録(案)
- 1-3： 2024年度事業計画案及び2023年度事業報告案
- 3： 話題提供資料：話題提供 経済産業省土屋係長からの提供資料
- 5： 2024年 定時社員総会提出資料(科学技術人材育成コンソーシアム関連部分)

議 事：

1. 前回議事の確認

1-1. 前回(2023年度第4回)コンソーシアム会議(2023/12/20)議事録確認
12/20の議事録を承認した。

1-2. メール審議

2024年度事業計画案及び2023年度事業報告案について、全体会議の承認賛成を得て、議決した。

2. 話題提供

経済産業省の土屋様より博士課程人材の活用に関する話題提供があり、意見交換が行われた。議論の一部は以下のとおり。

- 博士課程修了者を採用していない理由として「マッチングがうまくいかなかったため」とする企業が5割強であったことに対して、詳細を知りたい。
- 博士修了者はビジネスマナーなどを学ぶ機会が少なく、こだわりが強い印象もあるのではないかな。
- 人文系、理工系すべての分野での調査であるが、それぞれの分野での人数は一定ではないと思われるが、人数の情報があればもっとわかることがあるかもしれない。
- 日本は文系、理系と分けたがるように思うが、いずれの分野にも博士に進学する人が増えるとよい。
- 営業と専門がかみ合うとうまくいくパターンが多いように思われる。マネジメント側の工夫が求められる。
- 博士人材へのマネジメント教育も重要である。
- 経産省などのイニシアティブでアカデミアと産業界との懇談をすすめてもらえるとありがたい。
- 日本工学会も協力していく。

3. 2024年度人材育成コンソーシアムの体制及び取り組み方針

次年度のコンソーシアムのあり方について議論を行った。

- メール審議内容と関連して、第一、第二、第三部会活動したということで報告書に書き、この体制が次年度も維持されることが理事会でも承認された。
- 廣瀬壮一委員が次期代表となる。岸本喜久雄代表は顧問となる。
- 第二部会の主査は湯地敏史委員へ交代する。現在第二部会の山本誠主査の委員は継続とする。
- 日本機械学会の佐藤勲委員は川島先生へ交代する予定である。
- 日本建築学会からのもう一人の委員を決めていただきたい。
- 土木学会からも委員二名を出すようにしたい。たとえばJABEE活動をとりまとめていたメンバーが好ましい。
- オブザーバ参加頂いている経産省土屋係長は業務都合で参加の継続が困難と伺っているが、当会としては是非継続して頂きたいと考える。最終的な判断に至っていないようであるが、事務局から再度参加継続を要請願う。
- 一部の維持員の方には参加が難しい方がいる。継続か退会か事務局から本人に確認願う。フェローの方に声をかけて維持員をしていただくこともある。

4. その他

4-1. 団体会員について

コンソーシアムの団体会員として、

IMechE（英国機械学会日本支部）とJSPE（日本プロフェッショナルエンジニア協会）に加わっていただく方向であることが報告された。次回以降に学協会の紹介をしていただくこととした。

5. 次回

廣瀬代表体制が確立した6、7月以降に調整し日程を決めることとした。